



# やあ!

# ya!



URL:<http://tia21.or.jp/>

E-mail:[tia@tia21.or.jp](mailto:tia@tia21.or.jp)



▲ネパールの紹介をする岸田カルパナ氏（左）と柳田文氏（右）



▲セミナー後半は柳田氏のリードでカルパナ氏がネパールでの人生を語る。



▲日本とネパールの違いを女性の視点から話すカルパナ氏

## 国際理解セミナー

「知りたい！聞きたい！  
ネパールってどんな国？」

このたびのネパール大地震の被害に遭われた皆さまに、  
謹んでお見舞い申し上げます。

2月28日(土)、国際理解セミナー「知りたい！聞きたい！ネパールってどんな国～カルパナさんが語る、女性から見た日本とネパールの違い～」がとちぎ国際交流センターで開催され、46名が参加しました。

講師はネパール出身の岸田カルパナ氏と元青年海外協力隊ネパール隊員の柳田文氏の2名。セミナー前半はネパールの基本情報、衣食住、民族や宗教について紹介し、後半は、カルパナ氏が結婚後日本に来るまでのネパールでの人生について、また日本とネパールの違いについて話しました。

カルパナ氏は女の子のため学校に行かせてもらえず、7歳から家族の食事を作り始め、10歳になる前には家畜による商売でお金を稼ぎ、その後編み物を覚え18歳の時には裁縫のお店を出しました。「とにかく毎日が忙しかっただけで苦勞を感じなかった」という言葉にはネパールの女性のたくましさを感じました。在日22年のカルパナ氏が子育てを通して感じた日本とネパールとの違いは、「日本は子ども中心の生活だがネパールは違う」という話に多くの参加者が考えさせられました。

2015年6月号

No.131

Summer

ようこそとちぎへ  
国際交流団体紹介  
TIA インフォメーション  
JICA 情報局

平成27年度栃木県国際交流員 巖 英傑さん(中国)  
青年海外協力隊とちぎ応援団  
携帯メールサービス「やさしい日本語」始めました  
JICA ボランティアからの便り ~FROM ルワンダ~

## 「防災訓練 多言語翻訳シミュレーション」

地震などの災害時における外国人支援のために、TIA と 15 の県内市町国際交流協会が連携し防災訓練「多言語翻訳シミュレーション」を3月3日(火)～5日(木)に実施しました。

今年度は、栃木市に直下型地震が発生したと想定し、同市に設立された「栃木市災害多言語支援センター」からの行政情報等の翻訳要請に、各協会の翻訳協力者が各言語に翻訳するという内容で行われました。

今回の翻訳協力者は、英語7名、中国語5名、スペイン語5名、ポルトガル語4名、ベトナム語1名、韓国語2名、ネパール語1名、フランス語1名、ロシア語1名、ドイツ語1名、やさしい日本語14名の11言語42名でした。

## 研修会「災害時における外国人支援 ～ 災害多言語支援センターの役割」



▲講師の田村氏が災害多言語支援センターの役割を説明

「災害時における多言語支援体制整備事業」の一環として、栃木県及びTIAは、災害時において外国人に多言語で情報を提供するための拠点となる「災害多言語支援センター設置・運営マニュアル」を作成し、本マニュアルの効果的な運用を図るための研修会「災害時における外国人支援～災害多言語支援センターの役割」を3月13日(金)、とちぎ国際交流センターで開催しました。

講師は、多文化共生センター大阪代表理事の田村太郎氏。まず、田村氏が「災害多言語支援センターとは何か」というテーマで講演し、阪神・淡路大地震からこれまでの災害時における災害多言語支援センターの外国人支援内容を説明しました。続いてマニュアルの内容について、田村氏が各項目について具体的事例などを挙げながら解説しました。

後半は、「災害多言語支援センター運営シミュレーション」です。状況設定は、震災があった市に設立された災害多言語支援センターに集まり、前日に行われた避難所巡回のレポートや災害対策本部からの情報をもとに、全体ミーティングで翌日の活動内容について話し合うというものです。参加者は4つのグループに分かれ、活発な意見交換をしました。

後半は、「災害多言語支援センター運営シミュレーション」です。状況設定は、震災があった市に設立された災害多言語支援センターに集まり、前日に行われた避難所巡回のレポートや災害対策本部からの情報をもとに、全体ミーティングで翌日の活動内容について話し合うというものです。参加者は4つのグループに分かれ、活発な意見交換をしました。



▲各グループに分かれ、運営シミュレーションを実施

研修会には、市町国際化推進主管課及び市町国際交流協会の職員、また県内国際交流団体会員やTIA災害時外国人サポーターバンク登録者など25名が参加しました。

## 「やさしい日本語セミナー」

外国人に伝わりやすい日本語を学ぶ「やさしい日本語セミナー」をさくら市国際交流協会との共催で3月6日(金)にさくら市氏家公民館で開催しました。



▲やさしい日本語について丁寧に解説する講師の柳田氏

講師に一橋大学国際教育センターの柳田直美氏を迎え、日本人や外国人を含む28名が参加しました。前半はやさしい日本語が求められる背景として、外国人への情報提供では、完全な多言語化は困難な現実があるため「やさしい日本語」が選択肢の一つとなっていること、また、外国人にとって、わかりやすい話し方についての調査結果の解説がありました。



▲参加者同士でアイデアを出し合う

後半はグループに分かれてやさしい日本語への書き換えのワークを行いました。見てすぐにわかるよう絵や図などを取り入れるグループもあり、最後にそれぞれ工夫した点を発表しました。参加した外国人からは、やさしい日本語があることで多くの情報を得られるようになり、より安全で安心して生活ができること好評でした。

## 「日本語ボランティア情報交換会」

外国人に日本語を教えているボランティアを対象に、日本語の教え方などを学ぶ「日本語ボランティア情報交換会」を3月27日(金)にとちぎ国際交流センターで開催し、県内各地から30名が参加しました。



▲助詞「が」の用法を具体的に提示する講師の八重島氏

国内外での豊富な日本語指導経験を持つ宇都宮大学非常勤講師の八重島炎氏を講師に迎え、「助詞」の機能について学びました。今回は、それぞれの助詞の意味、使い方、使われる場面に焦点を当て、参加者の皆さんがグループワークを通し、助詞のはたらきを整理しました。

助詞を使った短文をできるだけ多く作り、それぞれが意見を出し合いながら、助詞の機能を整理し、一枚の大きな紙にまとめました。最後はグループごとにまとめたものを発表し、さまざまな助詞に関する理解を深めました。

参加者の皆さん一人一人が主役となり、和気あいあいとした雰囲気の中、情報交換会は行われました。

# ようこそとちぎへ！ WELCOME TO TOCHIGI!

## 平成27年度 栃木県国際交流員（中国）

ゲン エイケツ  
巖 英傑 さん

中国浙江省臨安市出身。  
浙江省人民对外友好協会に在籍。  
今年の4月から一年間、県国際課で国際交流員として勤務。  
手にしているのは、趣味の書道で「絆」と書いた作品。



—はじめまして！ 巖さんは日本語をどこで学ばれたんですか。

浙江大学の日本語学科で学びました。以前から日本に興味があり、日本についてもっと知りたいと思ったのがきっかけです。前任の国際交流員の方 備さんとは大学で同級生だったので、その頃からの友人です。

—そうなんですか。巖さんの中国でのお仕事を教えてください。



▲栃木県青年の船の参加者と(右端が巖さん)

以前は浙江省の入国管理の業務、日本から来る方の案内や訪問の手配をしていました。また、北太平洋地域6か国海上保安機関による海上保安長官級会合の通訳を担当したことも

あります。また、対外友好協会としては浙江省の代表団や青年団の随行のため、日本の友好交流先である福井県や静岡県には何度も訪問したことがあります。栃木県は今回が初めてですが、実は18年前、青年リーダーのための国際交流事業である「青年の船」で栃木県からの参加者と中国で交流したことがあるんです。当時交流した方々と再会できればと思っています。

—ぜひまた交流できるといいですね。初めての栃木県の印象はいかがでしょうか。

自然が豊かで素晴らしいですね。少しずつ文化や伝統に触れていきたいと思っています。中でも日光彫りにとても関心があり体験してみたいです。私の趣味は書道の他に、篆刻もよく作品をつくっています。文字だけでなく、人物でも何でも好きなものを彫るんです。写真の作品は篆刻で描いたモナリザで、知事にプレゼントしたものです。私の作品には「笑顔」というテーマがあります。モナリザも微笑んでいますし、プロフィール写真で持っている「絆」の文字も笑っているようなイメージで書きました。



▲巖さんの篆刻の作品

栃木県でもさまざまなことを体験し、日本や中国の伝統文化を通じて栃木県の皆さんに笑顔を届けられたらと思っています。

## 国際交流団体紹介 「青年海外協力隊とちぎ応援団」

青年海外協力隊とちぎ応援団は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する ODA 事業の一つで、昭和40年の発足以来3万9千人以上の青年等がボランティアとして開発途上国で草の根レベルでの国づくり、人づくり、心のふれあいに励み活躍してきた青年海外協力隊の隊員、ならびにその事業に対する支援と、帰国隊員の貴重な体験を県内で生かすことを目的に県内各界各層に呼びかけ、平成15年10月10日に設立されました。

主な活動は、青年海外協力隊支援事業として、年4回派遣される JICA ボランティアの壮行会の開催や、ふるさと便りとして県域新聞の元日号を現地へ届けるほか、隊員の要請により、隊員の事業（小さなハートプロジェクト）を支援しています。



▲帰国隊員による報告会

設立以来今年で12年目を迎えますが、開催した壮行会は42回を数え、合計で210人（シニア隊員26人を含む）の隊員を送り出しています。

また、帰国隊員

支援事業として、帰国隊員の報告会の開催や、JICA 事務所や青年海外協力隊OB会との共催により、派遣された隊員の家族等との懇談会を開催し、ご家族の

不安解消に努めています。さらに、貴重な体験を持つ帰国隊員が一人でも多く県内に定住できるよう、県や経済団体に対して現職派遣や採用の要請活動も行っています。

会員は現在75名（団体等を含む）で会員には毎月『クロスロード』を送付しています。

今年は青年海外協力隊創設50年目の節目の年に当たります。発足当時と比べ、開発途上国への技術支援をめぐる情勢は大きく変わりましたが、隊員の果たした実績は高く評価されています。

今後とも微力ではありますがこれらを支援していきたいと考えています。



▲壮行会では、赴任国の国旗を掲げる隊員ら

（文・事務局長 猪瀬 博）

# 新理事長・新事務局長 就任のごあいさつ

公益財団法人  
栃木県国際交流協会

理事長 かくたかゆき  
角田孝之

(写真左)



公益財団法人  
栃木県国際交流協会

事務局長 こばやしただのり  
小林忠教

(写真右)

この度、公益財団法人栃木県国際交流協会理事長に就任いたしました角田です。

就任早々驚いたことの一つが、20年程前、県の国際交流課(当時)に在籍し友好交流業務に携わった頃とは違い、県内在住の外国人の方からの相談電話の多さです。グローバル化が進み、まさに「多文化共生」の時代となっていることを実感したところです。

そんな現実を目の当たりにして、「地域に生活する者一人ひとりが、互いの文化を理解し、尊重しながら共に暮らす」ということの重みが、わが胸にズシンと響いてきます。

当協会では、これまでも国際理解の促進や各種相談の充実等に努めてきましたが、今後は、国際経験豊富な人材が活躍できる場の確保や在住外国人の就職支援等にも積極的に取り組み、地域国際化協会としての使命をより一層果たしたいと考えております。

関係機関・団体の皆様の引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

4月1日付けで、公益財団法人栃木県国際交流協会の事務局長に就任しました小林です。

現在県内には、約3万人の外国の方が暮らしており、当協会にも毎日のように生活に係わる相談、各種研修や各自の集まり等で来所しています。

こうした中で、当協会が更に県内の国際交流の拠点として、情報提供や生活向上支援など社会の変化に対応した各種事業や相談を展開していくことが大切であると感じています。

特に今年度は、火曜日の午前中のみですが、ベトナム語による相談を開始したほか、定住外国人の就職支援のためのセミナー開催などに取り組んでいます。

今後とも、県、市町、市町国際交流協会など関係機関との連携を更に進め、国際交流、国際理解、国際協力や多文化共生の社会づくりに取り組んでいきたいと考えていますので、ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

JICA  
情報局

JICA ボランティアからの便り  
～FROM ルワンダ～

26-1 吉永 紀子さん (芳賀町)  
ルワンダ 服飾 2014年6月より派遣

【活動紹介】東アフリカ、ルワンダの戦争によって障害を持った方の社会復帰のための技術支援として、学校で洋裁を教えています。服づくり、ものづくりが楽しいと思ってもらえるように、また少しでもたくさんの方が社会復帰できるようにお手伝いしたいと思います！



【配属先での授業風景】



【現職学校生徒と卒業生と】

派遣から約一年が経つ吉永さん、毎日楽しみながら生徒達との活動に励んでいるということです。写真の様子から吉永さんの奮闘ぶりが伝わりますね。

ますますのご活躍を栃木より応援しております！

【問合せ】TIA内 JICA 栃木デスク 028-621-0777

<T I A 携帯情報サービス>

「やさしい日本語」始めました！

生活情報やイベント、防災について携帯メールで配信しているサービスに、新たに「やさしい日本語」が加わりました！

日本語がまだ得意でない外国人の皆さんに、ぜひお知らせください！ 登録は無料です。

☆希望する言語のアドレスに空メールを送ってください☆

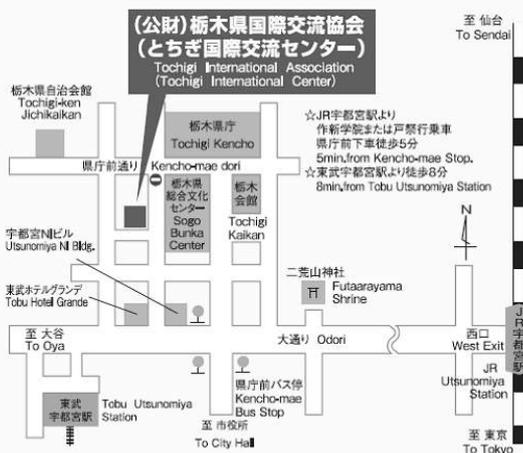
やさしい日本語 tia21ysn@b.bme.jp

英語 tia21eng@b.bme.jp ポルトガル語 tia21por@b.bme.jp

中国 tia21chn@b.bme.jp スペイン語 tia21esp@b.bme.jp

日本語 tia21jpn@b.bme.jp

TIAご案内図



編集・発行 公益財団法人栃木県国際交流協会  
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内  
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)  
F A X 028-621-0951  
業 務 時 間 8:30~17:15  
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日